

~ Kyushu Regional Land Sustainability Plan ~
活力ある経済社会を目指す検討小委員会
~ 中間レポート(案) 参考資料集 ~

参考資料集（活力ある経済発展を目指す検討小委員会中間レポート）

第1章 九州圏における現状と課題

第1節 九州圏の圏土構造の位置づけと特徴

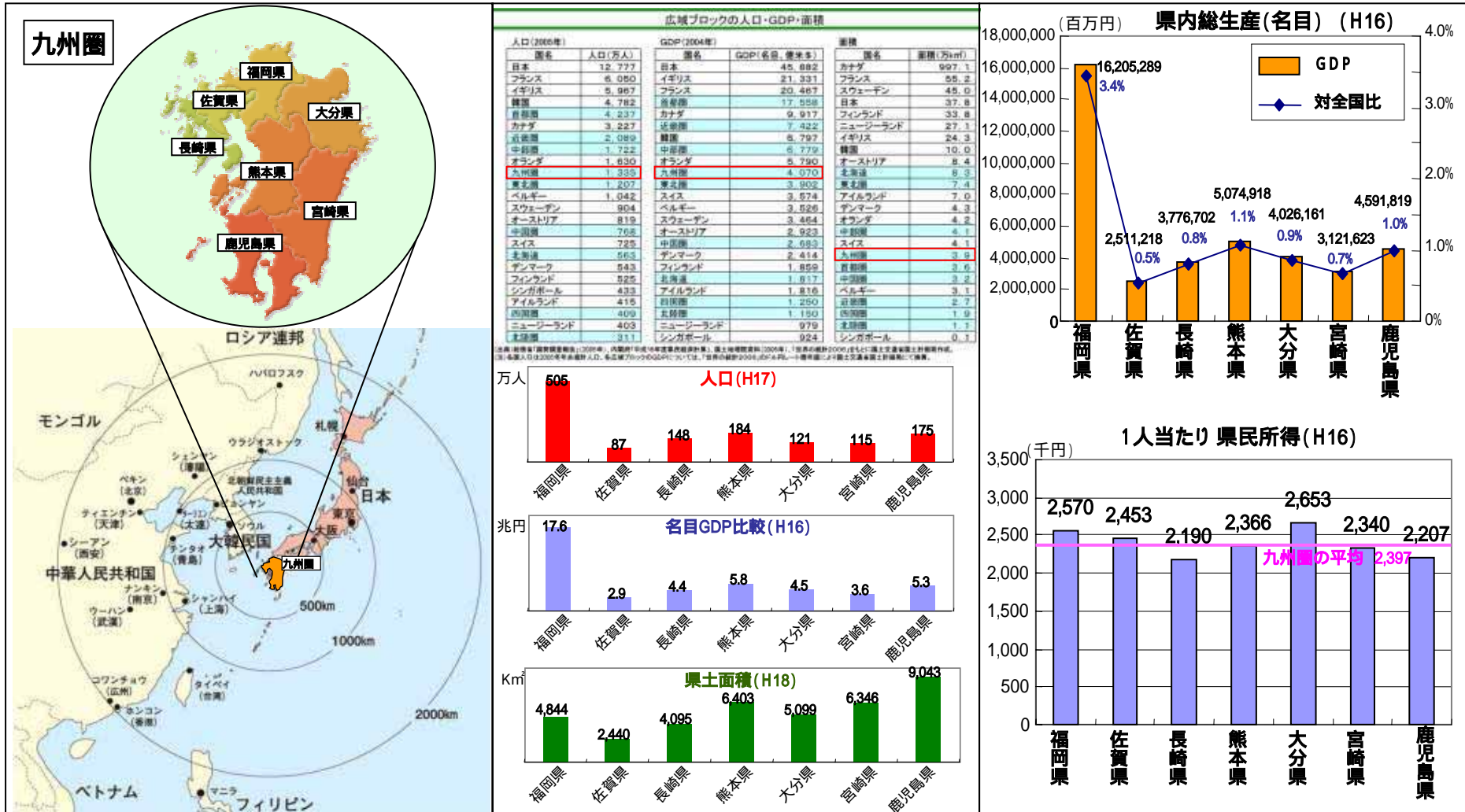
- (1) 発展する東アジア等にかかれた九州圏
 - ・ 東アジア等と九州圏の歴史的つながり・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - ・ 東アジアにかかれた九州圏・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (2) 発展する北部九州の都市圏と地域を支える拠点となる都市圏
 - ・ 北部九州の都市圏への人、物、情報等の集中・・・・・・・・ 4
 - ・ 都市が適度に分散する九州圏の都市構造・・・・・・・・ 5
 - ・ 九州圏を支える交通・情報通信ネットワーク・・・・・・・・ 6
- (3) 地域資源が豊富な九州圏
 - ・ 九州圏の地域資源・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - ・ 我が国の食・木材供給を支える地域としての九州圏・・・・・・・・ 8
 - ・ 一大観光地としての九州圏・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- (4) 厚みを増す九州圏の集積産業
 - ・ 九州圏の産業構造・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
 - ・ 自動車産業、半導体産業等の産業集積・・・・・・・・ 11
 - ・ 新たなニーズに対応した新産業の形成・・・・・・・・ 12

第2節 九州圏を取巻く経済社会情勢の転換

- (1) 人口減少・少子高齢化の進行
 - ・ 本格的な人口減少社会の到来、急速な少子高齢化の進展・・・・ 13
 - ・ 人口減少・少子高齢化の影響・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- (2) 産業構造変化の加速
 - ・ 産業構造の転換・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
 - ・ 生活・産業の情報化・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- (3) 東アジア等の経済発展と九州圏の国際化
 - ・ 東アジア等の著しい経済発展・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
 - ・ 東アジアの発展と九州圏の人、物、情報等の流通・・・・・・・・ 20

第1章第1節 九州圏の位置づけと圏土構造の特徴

- 九州圏は、首都東京まで約1,000km離れた圏域である一方で、海峡を隔てて朝鮮半島に近接し、東京とほぼ同じ距離以内に上海など東アジアの主要都市が分布している。
- 九州圏の人口約1,340万人、域内総生産44兆円は、欧州の中規模国オランダ、スイス等と同等規模である。全国比では、面積の約11%、人口の約11%、総生産の約9%とわが国の約1割を占める。



第1章第1節 (1) 東アジア等と九州圏の歴史的つながり

- 九州圏は、紀元前よりアジアとわが国の人、物、文化等の交流の窓口として機能してきた。
- 稲作や鉄器、鏡などの伝来にまつわる吉野ヶ里遺跡、大陸をにらんだ防衛・外交の拠点である大宰府政庁をはじめ数々の国際交流の舞台の跡が残り、アジア、ヨーロッパの諸文明との窓口として重要な役割を果たしてきた。

九州圏の東アジア等との歴史的つながり

時代	わが国の主な出来事(九州圏との関連を中心に)
縄文・弥生・古墳時代	稲作、鉄器、鏡など伝わる(佐賀:吉野ヶ里遺跡ほか) 倭の奴の国王後漢に使者(志賀島:金印)
飛鳥・天平	仏教の伝来(百済経由) 遣隋使(小野妹子) 遣唐使開始
奈良・平安	白村江の戦いで新羅・唐に敗れる 大宰府政庁開設と、防人の配備 空海、最澄唐に渡る(第11回遣唐使) 鴻臚館(外国使節迎賓館)設置(博多) 遣唐使廃止(唐の衰退)
鎌倉 室町	元寇(文永の役、弘安の役(博多:元寇防塁構築)) 日明貿易(勘合貿易)(博多) 日朝(李氏朝鮮)貿易(博多)
安土桃山 江戸	鉄砲伝来(種子島)、キリスト教伝来(鹿児島) 朝鮮出兵(文禄の役、慶長の役)(名護屋) 朝鮮陶工技術が伝わる(有田焼、薩摩焼誕生) 鎖国により出島が唯一の交易拠点へ(長崎)
明治	薩英戦争(鹿児島) 博多港開港に指定される
昭和	八幡製鉄所(日本初の高炉)、三菱長崎造船所操業 重化学工業の集積する北九州工業地帯4大工業地帯として日本の工業化に貢献(北九州)

出典:各種資料より作成

歴史的つながりにより形成された史跡等(事例)

大宰府政庁跡
(福岡県太宰府市)



7世紀後半から奈良・平安時代を通じて九州全体を治め、わが国の西の守りとして防衛を、また外国との交渉の窓口として重要な役割を果たしてきた役所跡で、都府楼跡とも呼ばれる。現在では、公園として復元されており、大宰府政庁跡の中心にその大きさをしのばせる立派な礎石が残っている。

九州の焼き物文化
(有田焼、伊万里焼、薩摩焼等)



九州の焼き物産地の多くは、豊臣秀吉の朝鮮出兵(1592-98)をきっかけに、朝鮮人陶工によってもたらされた。窯業技術は九州各地に根付き、その土地の風土が特色ある焼き物文化を創り上げた。朝鮮半島の窯業技術を基礎に、中国・景德鎮窯の技法を取り入れ、肥前や天草などの良質な陶石を使った、有田や伊万里焼、薩摩焼等は、江戸期に中国や遠くは欧州にまで輸出された。

坊津港(日本三津の1つ)
(鹿児島県坊津町)

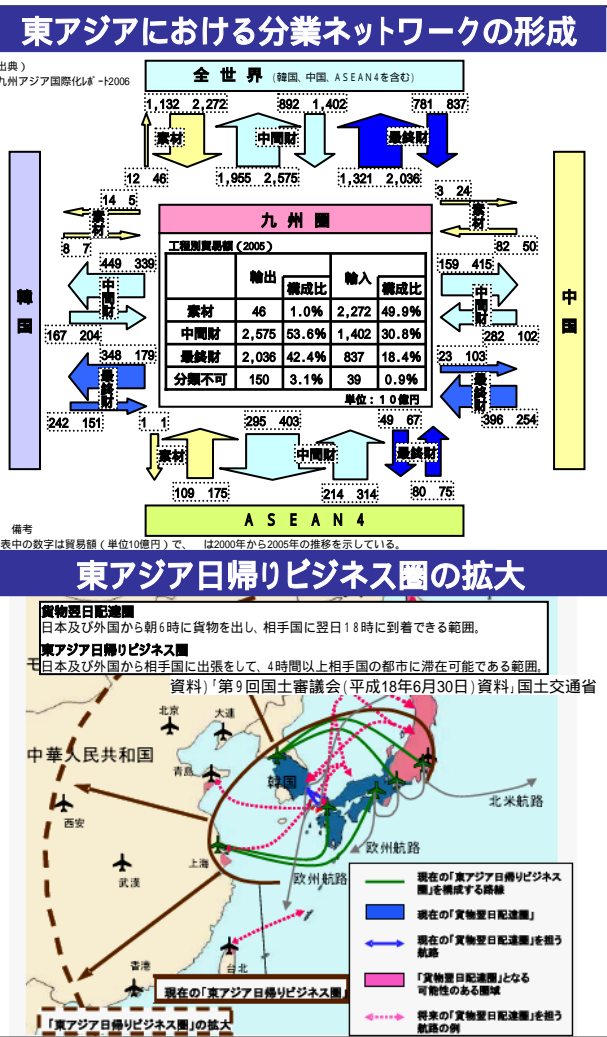
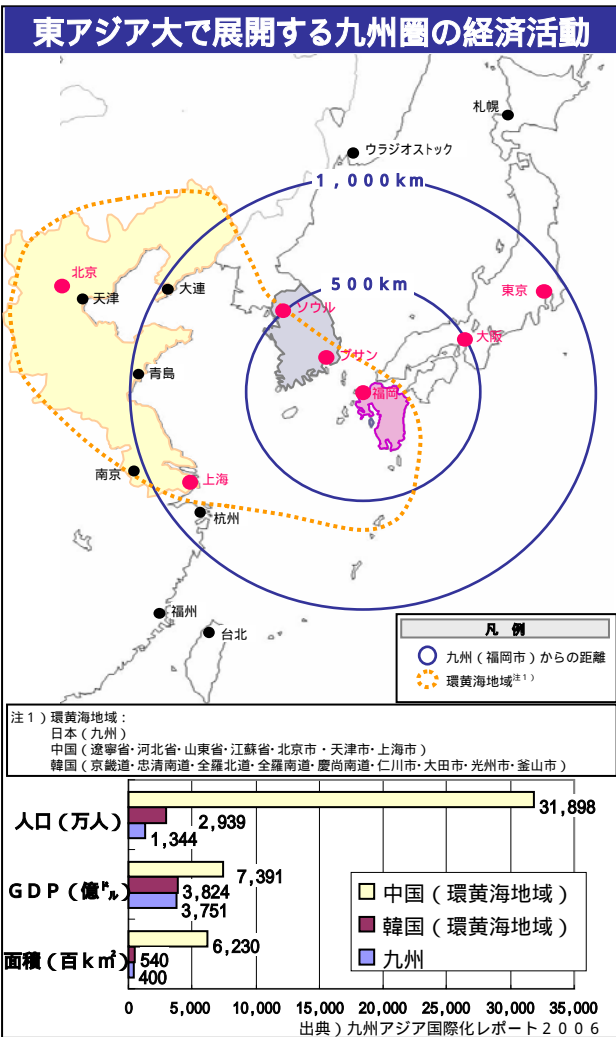


薩摩半島の西南端、リアス式海岸特有の複雑な地形に守られた天然の良港「坊津港」は、むかし唐の港と呼ばれ、伊勢安濃津(三重県津市)、筑前の博多津(福岡市)とともに日本三津とうたわれた。古くは遣唐使船の寄港地であり、また鑑真上人の上陸地としても知られ、鎌倉時代以降は大陸文化を受け入れる南方貿易の拠点となった。

出典)太宰府市、(財)伝統的工芸品産業振興協会、(社)九州経済連合会、(独)九州沖縄農業研究センター、鹿児島県坊津町ホームページより作成

第1章第1節(1) 東アジアに開かれた九州圏

- ・朝鮮半島や中国沿岸部周辺等、経済発展の著しい都市との水平分業が進展している。
- ・東アジア各国との国際旅客、物流需要は増大し、福岡からの日帰り交流圏に中国・上海までが設定可能。
- ・九州圏では、九州国立博物館をはじめアジア等との文化交流拠点の整備が進み、また国際コンベンションも数多く行われているほか、各地で、特色ある芸術・文化交流や国際姉妹都市交流などが行われている。



国際交流拠点施設(事例)

九州国立博物館(太宰府市)

「日本文化の形成をアジア史的観点から捉える博物館」を基本理念に、旧石器時代から近世末期(開国)までの日本の文化の形成について展示している。また、アジア地方各地との文化交流を推進する拠点としての役割も持つ。

出典)九州国立博物館ホームページより作成

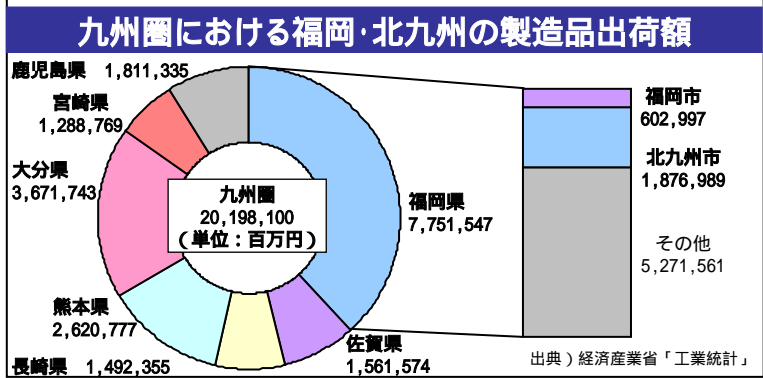
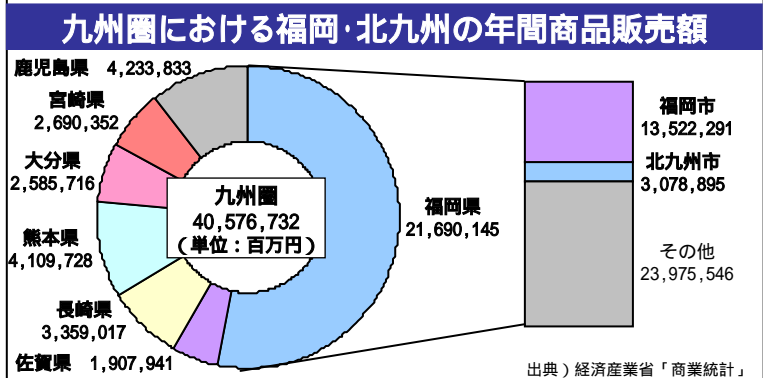
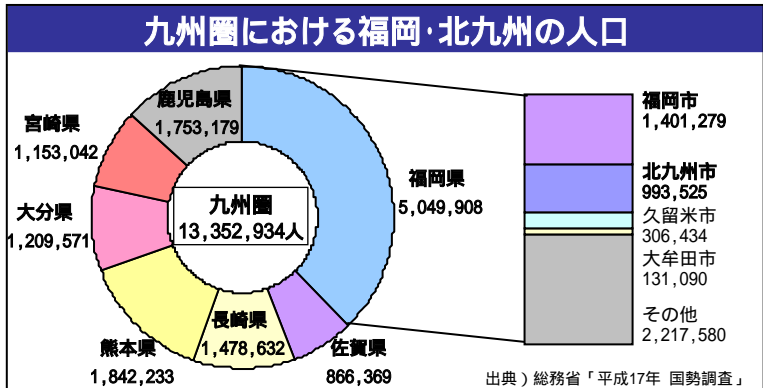
B-CON PLAZA(別府市)

B-CON PLAZAは、人・物・情報等の交流と、地域の文化活動を促進する場を提供することを目的としている。

出典)B-CON PLAZAホームページより作成

第1章第1節 (2) 九州北部の都市圏への人、物、情報等の集中

・九州圏の中でも高次都市機能の集積が高く高度な産業集積がある福岡市および北九州市では、人口集積や総生産あるいは、知識産業の集積等において九州圏全体を牽引する位置づけにあるほか、産学官一丸となった協働体制の下に、次世代をにらんだ学術研究都市づくり等の取組が活発化している。

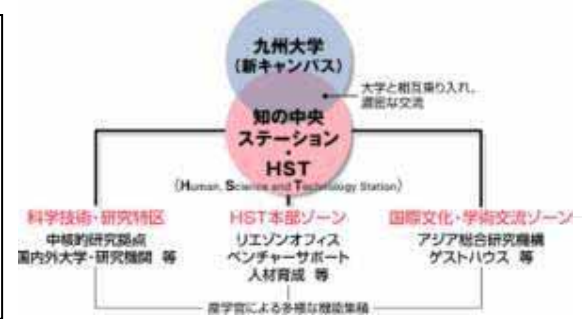


九州北部の都市圏での戦略的取組(事例)

九州大学学術研究都市構想

九州大学では、福岡県、福岡市、九州産業界とともに平成17年度からはじまる統移転事業を契機に、新キャンパス(伊都キャンパス)を核とした日本とアジアの知的交流拠点として、福岡市から唐津市に至る広域的エリアを対象にした学術研究都市づくりを推進している。2004年には、その推進組織として、(財)九州大学学術研究都市推進機構を設立し、産学官連携による取り組みを進めている。

知の交流活動を促進する科学技術システムの構築



出典: (財)九州大学学術研究都市推進機構ホームページ

アジアス九州

九州北部学術研究都市整備構想(アジアス九州)は、「環境・人間・アジア」を基本コンセプトとして、九州北部の7つの拠点地域(北九州、宗像、飯塚、福岡、筑紫、久留米・鳥栖、佐賀)が、地域特性を活かして都市機能・学術研究機能・産業機能の高度化を進めることによりそれぞれの拠点性を高めるとともに、各種のプロジェクトごとに相互のネットワーク化を図りながら、九州北部にネットワーク型の文化・学術研究の一大拠点を構築することを目指している。

アジアス九州の概要

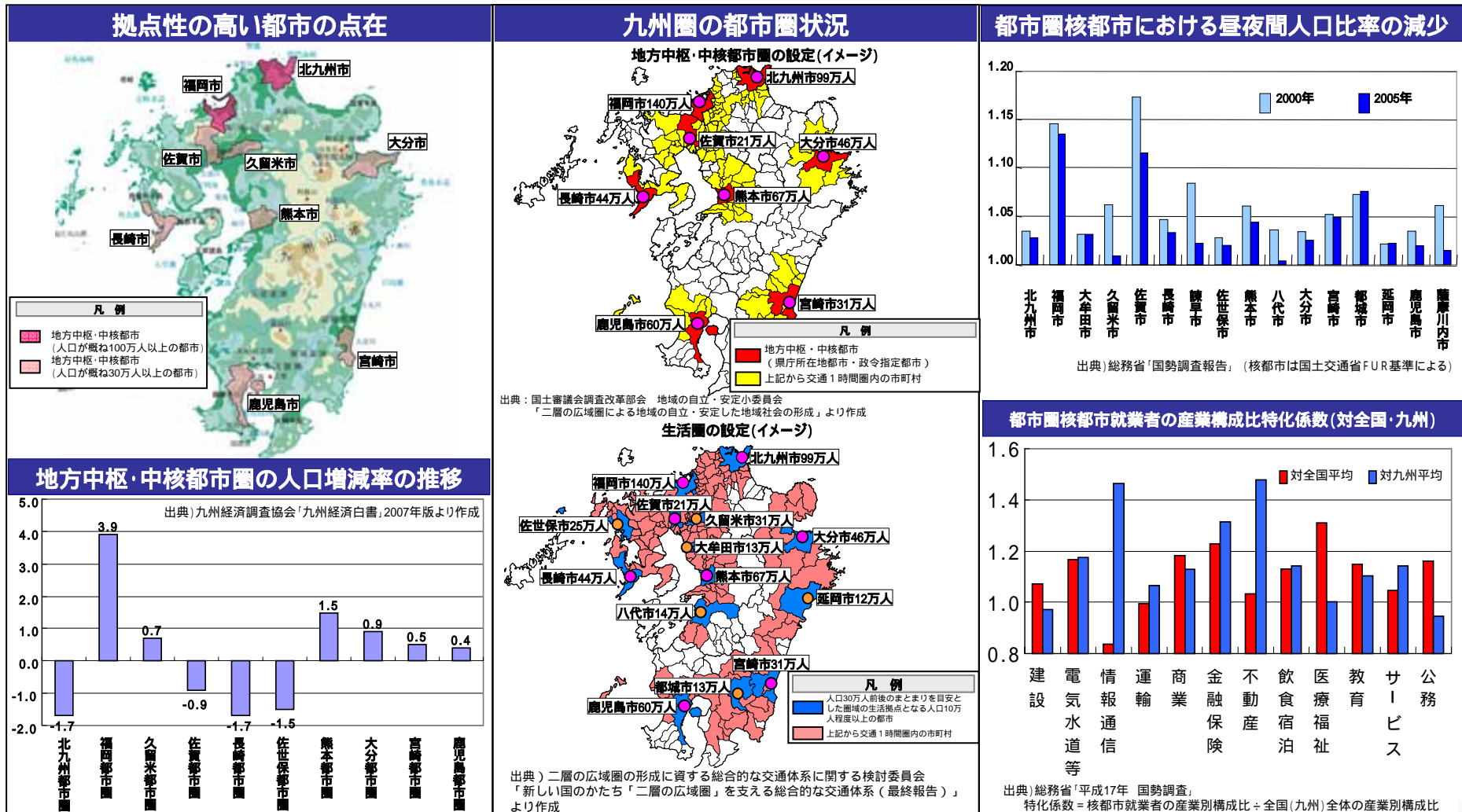


出典)九州北部学術研究都市推進協議会ホームページ

高次都市機能の集積の事例



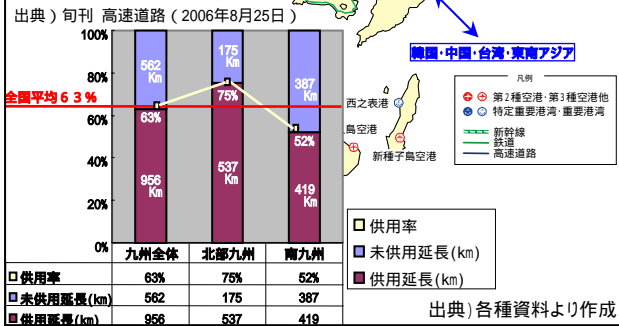
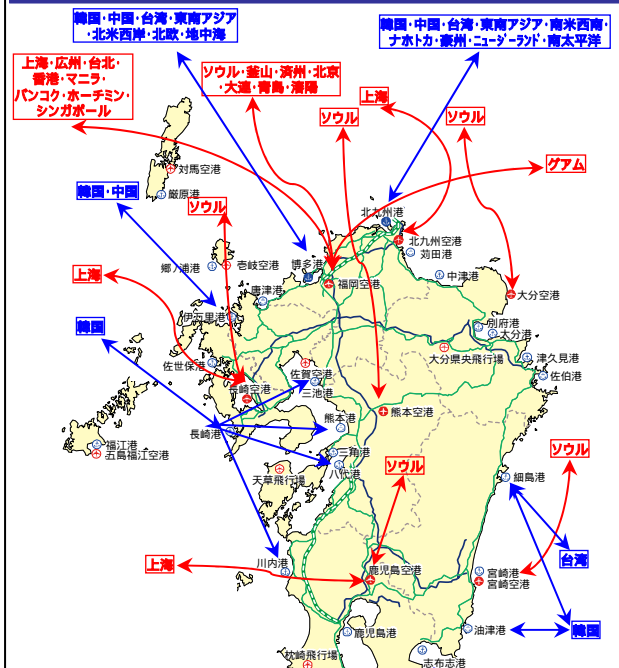
- 九州圏では、県庁所在地など、高次都市機能の集積を可能とする拠点性の高い基幹都市が適度な間隔で分散しており、高次医療機能、大学、公設試験研究機関、大型商業施設、国際的な交流施設などの集積が進んでいる。
- 地方中枢・中核都市の多くでは既に人口減少局面に入り、急速な高齢化が進展するとともに、中心市街地では賑わいを喪失している。



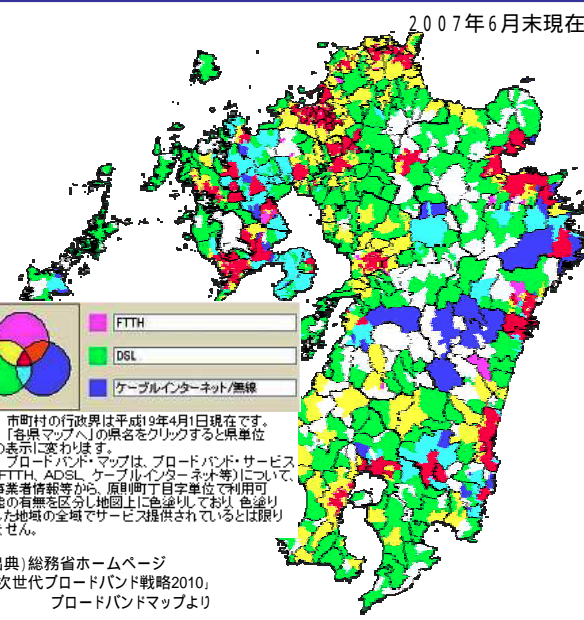
第1章第1節(2) 九州圏の交流連携を支える交通・情報通信ネットワーク

- 九州圏では、山陽、九州新幹線や鉄道網と東西十文字型の高規格幹線道路、国際空港と離島空港、博多港・北九州港の特定重要港湾をはじめとする重要港湾を有し、圏域内外を結ぶ高速交通体系が整備されている。
- 情報ネットワークの整備については、中央山地や離島地域のブロードバンド化がやや遅れており、交通・情報通信ネットワークの東西格差、南北格差が存在する。

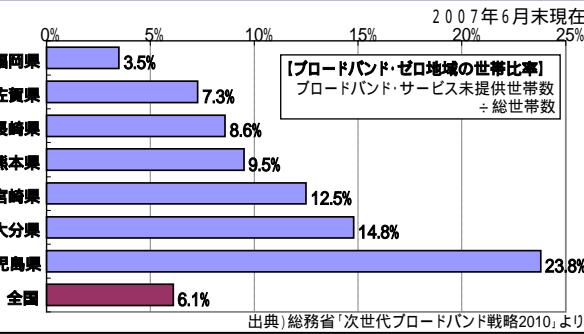
空港、港湾、高速道路、新幹線、鉄道の整備状況



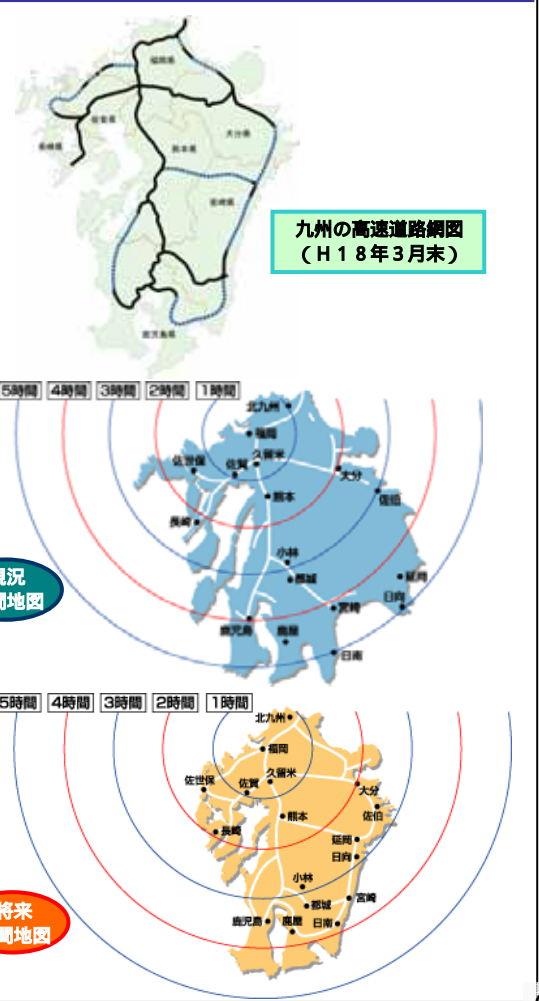
九州圏におけるブロードバンドの利用環境



ブロードバンドサービス未提供地域の世帯数の割合

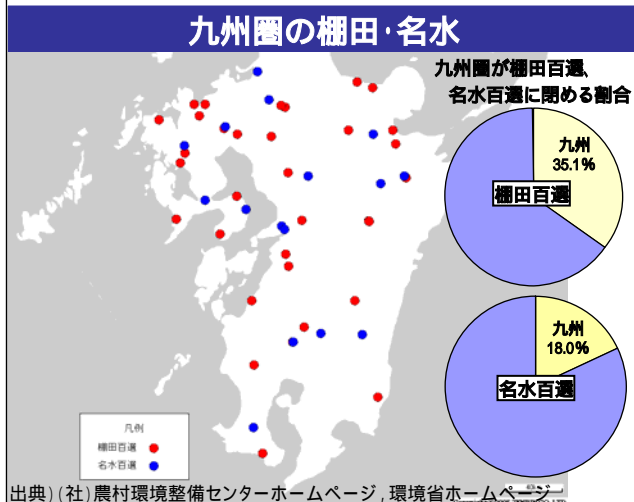
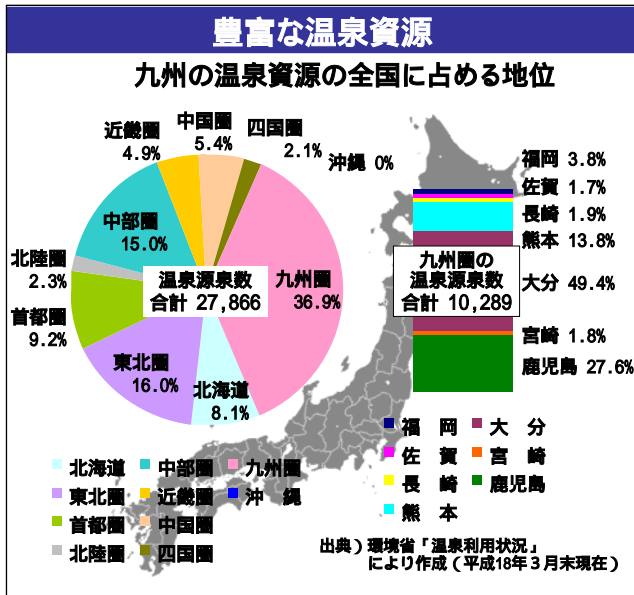


九州圏の高速道路網図(H18.3末)



第1章第1節 (3) 九州圏の地域資源

- 火山の多い九州圏では、温泉資源に恵まれ、源泉は、源泉数、湧出量ともに全国一のシェアを占めている。
- 豊かな自然環境に育まれ、全国的にも棚田や名水などの数も多く、また、伝統的な祭りやアジア・ヨーロッパ文化と融合した祭りやキリスト教関連遺産、近代化産業遺産群など多彩で特色ある地域資源が数多く分布している。




九州圏の伝統的な祭り・伝統工芸(事例)

歴史・文化、祭りの観光資源としての活用

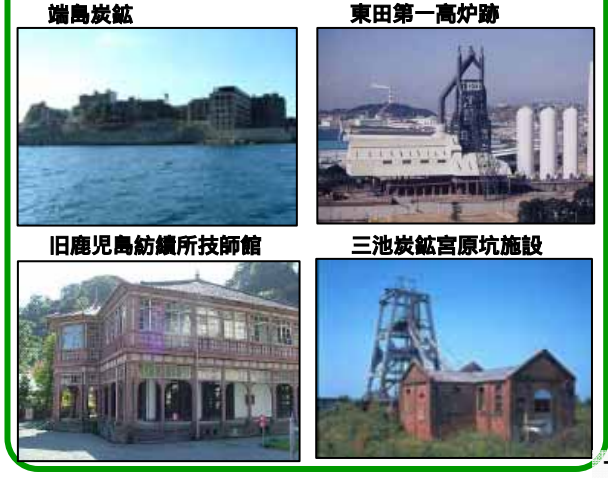
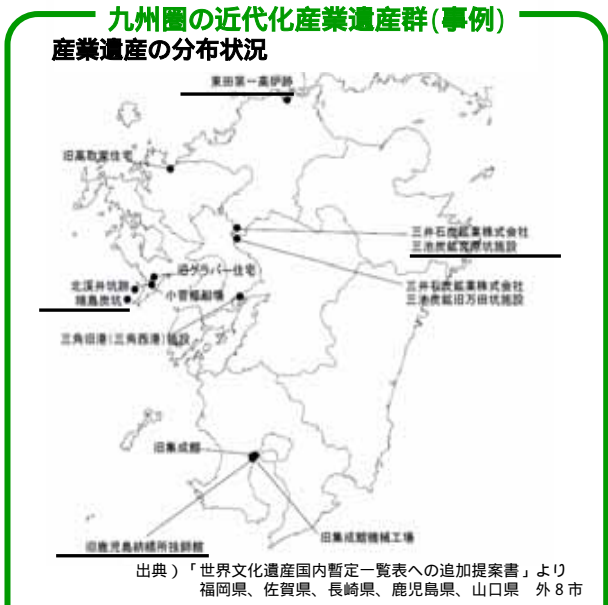
- 歴史的・文化的祭りは多くの観光客を集めている。
- 九州圏には伝統工芸も多く、これらは貴重な観光資源となっている。

九州の祭り

福岡県	小倉祇園太鼓(北九州市)、博多どんたく(福岡市)、博多祇園山笠(福岡市)など	 写真) 社団法人佐賀県観光連盟HPより
佐賀県	唐津くんち(唐津市)など	
長崎県	長崎ペロン競漕大会、精霊流し(長崎市)など	出典) 九州経済調査協会 21世紀の九州・山口経済社会大辞典より
熊本県	火の国まつり(熊本市)、阿蘇の火まつり(阿蘇村)など	
大分県	鶴崎踊り(大分市)、塚原甘酒祭り(由布市)など	出典) 財団法人伝統工芸品振興協会ホームページより
宮崎県	宮崎神宮大祭(宮崎市)、高千穂夜神楽(高千穂町)など	
鹿児島県	おはら祭(鹿児島市)、弥五郎どん祭り(曾於市)など	

九州の伝統工芸

久留米餅	県名	伝統工芸品
	福岡県(7種)	博多織(織物)、久留米餅(織物)、小石原焼(陶磁器)、上野焼(陶磁器)、八女福島仏壇(仏壇仏具)、博多人形(人形)、八女提灯(提灯)
	佐賀県(2種)	伊万里焼・有田焼(陶磁器)、唐津焼(陶磁器)
	長崎県(2種)	三川内焼(陶磁器)、波佐見焼(陶磁器)
	熊本県(3種)	小代焼(陶磁器)、天草陶磁器(陶磁器)、肥後象がん(金工品)
	大分県(1種)	別府竹細工(竹工品)
	宮崎県(2種)	本場大島紬(織物)、都城大弓(竹工品)
	鹿児島県(3種)	本場大島紬(織物)、薩摩焼(陶磁器)、川辺仏壇(仏壇仏具)

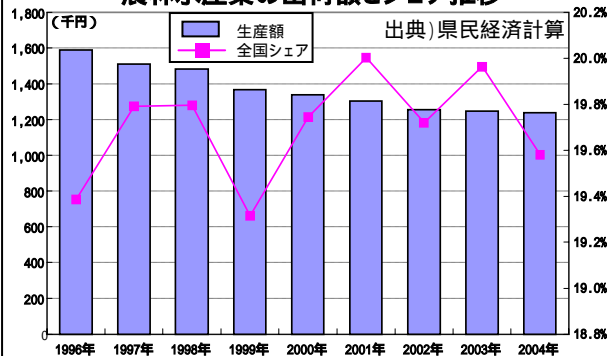


第1章第1節(3) 我が国の食料・木材供給を支える地域としての九州圏

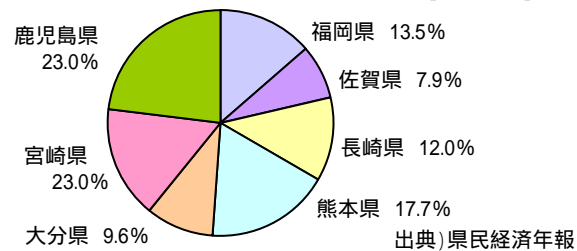
- ・九州圏は農林水産業が盛んであり出荷額は全国の約2割強を占めており、また木材生産も盛んである。
- ・九州圏の食材はブランド化が定着しており、九州圏から輸出される農林水産物等は近年増加している。
- ・生産額ベースの食料自給率では、100%を超えるものの、カロリーベースでの自給率は、100%を大きく下回っている。

九州圏の農林水産生産額等の推移

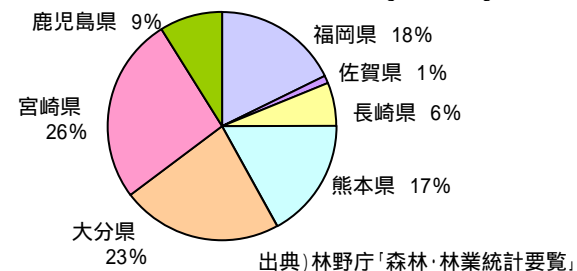
農林水産業の出荷額とシェア推移



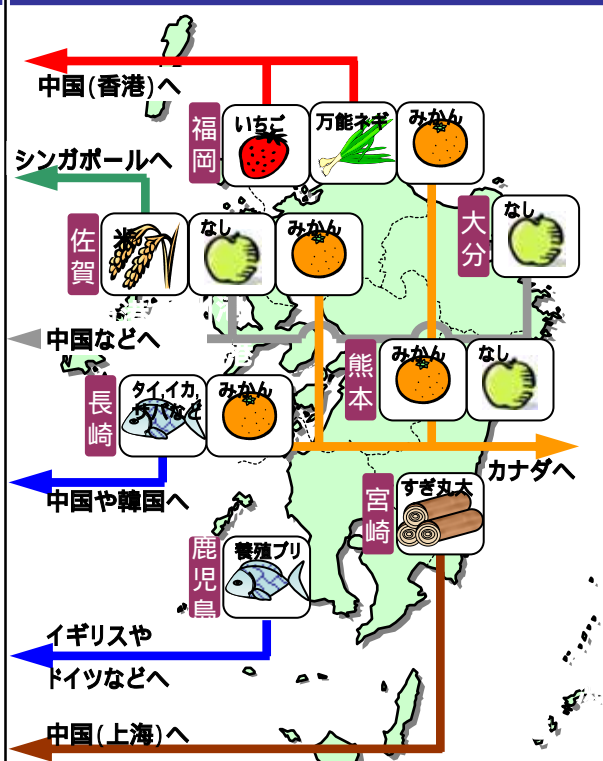
農林水産業生産額の県別シェア (2004年)



林業産出額の県別シェア (2004年)



九州から東アジアへ輸出されている農産品等



海外輸出される九州圏の農林水産品(事例)

あまおう(福岡) 鮮魚(長崎)

アジア市場での需要、嗜好の変化をとらえて海外でのPR(フェア等)に取り組み、鮮度と確立されたブランド力により輸出

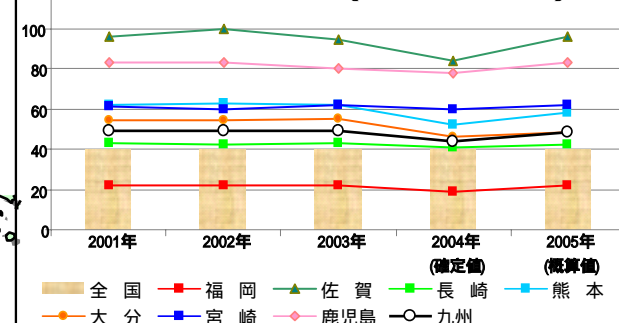
生産・収穫日本一の品目(事例)



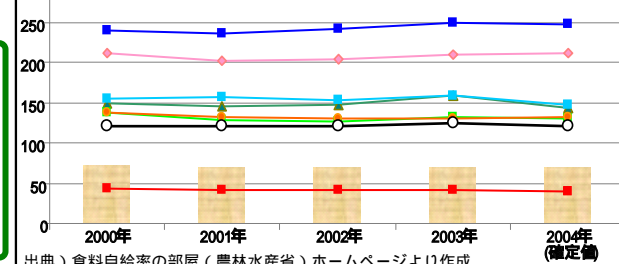
風土に恵まれた九州圏の農業は、品目選択の幅が広く、また、水産業においては四方を海で囲まれているため豊富な水産資源に恵まれている。このため、生産・収穫日本一の品目も多く存在している。

九州圏の食料自給率の推移

食料自給率の推移 (カロリーベース)

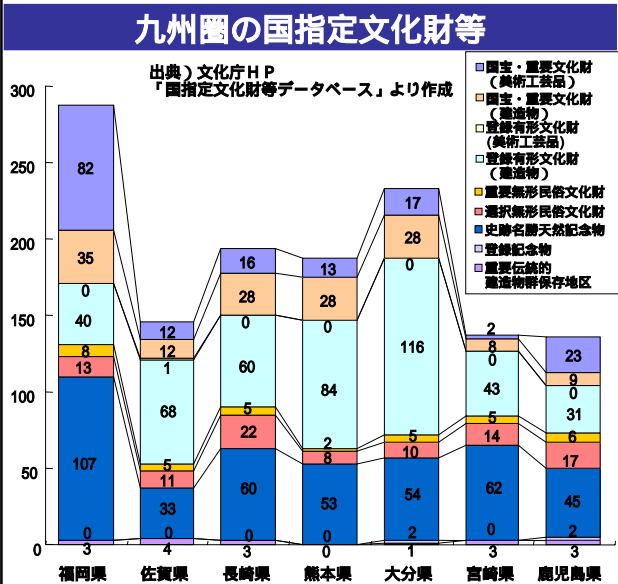
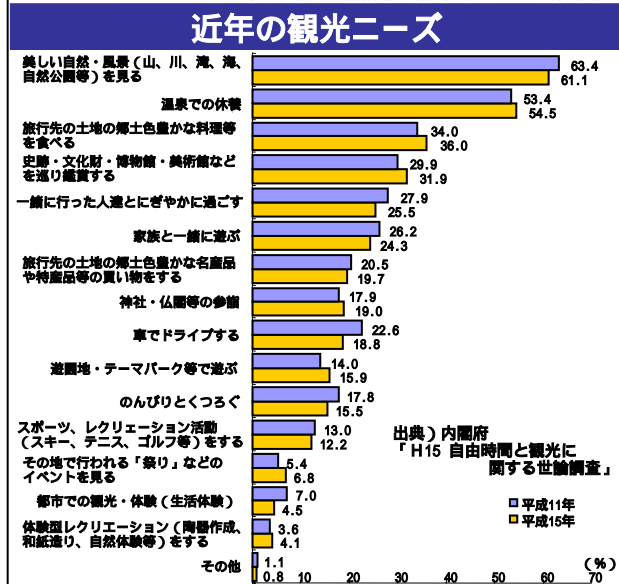
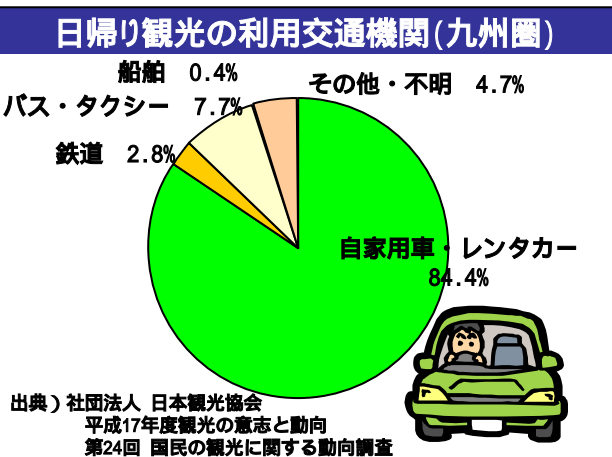
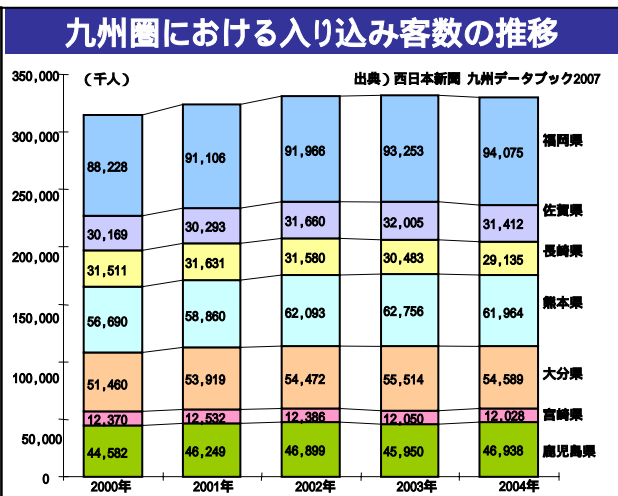
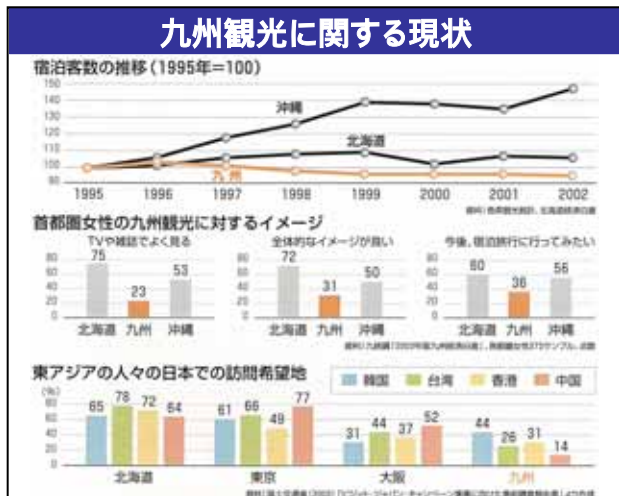


食料自給率の推移 (生産額ベース)



第1章第1節(3) 一大観光地としての九州圏

- 近年では、入込観光客数の増加の伸び悩みや日帰り観光客の増加、国内観光地としての地位の低下などの課題を抱えているなかで、地域資源を活用し、新たな付加価値を生んでいる地域の増加もみられる。
- 九州観光戦略を九州圏が一体となって実現するため、「九州観光推進機構」が設立され、官民一体となった取組が推進されている。



新たな付加価値を生んでいる地域(事例)

アジアとの国際文化交流の推進事例

アジアマンス

1990年にスタートしたアジアマンス。アジアの人々が集い、その多様性を理解し合う場として、また、市民が気軽に参加できるアジアの祭典

地域資源を活用し新たな付加価値を生んでいる地域

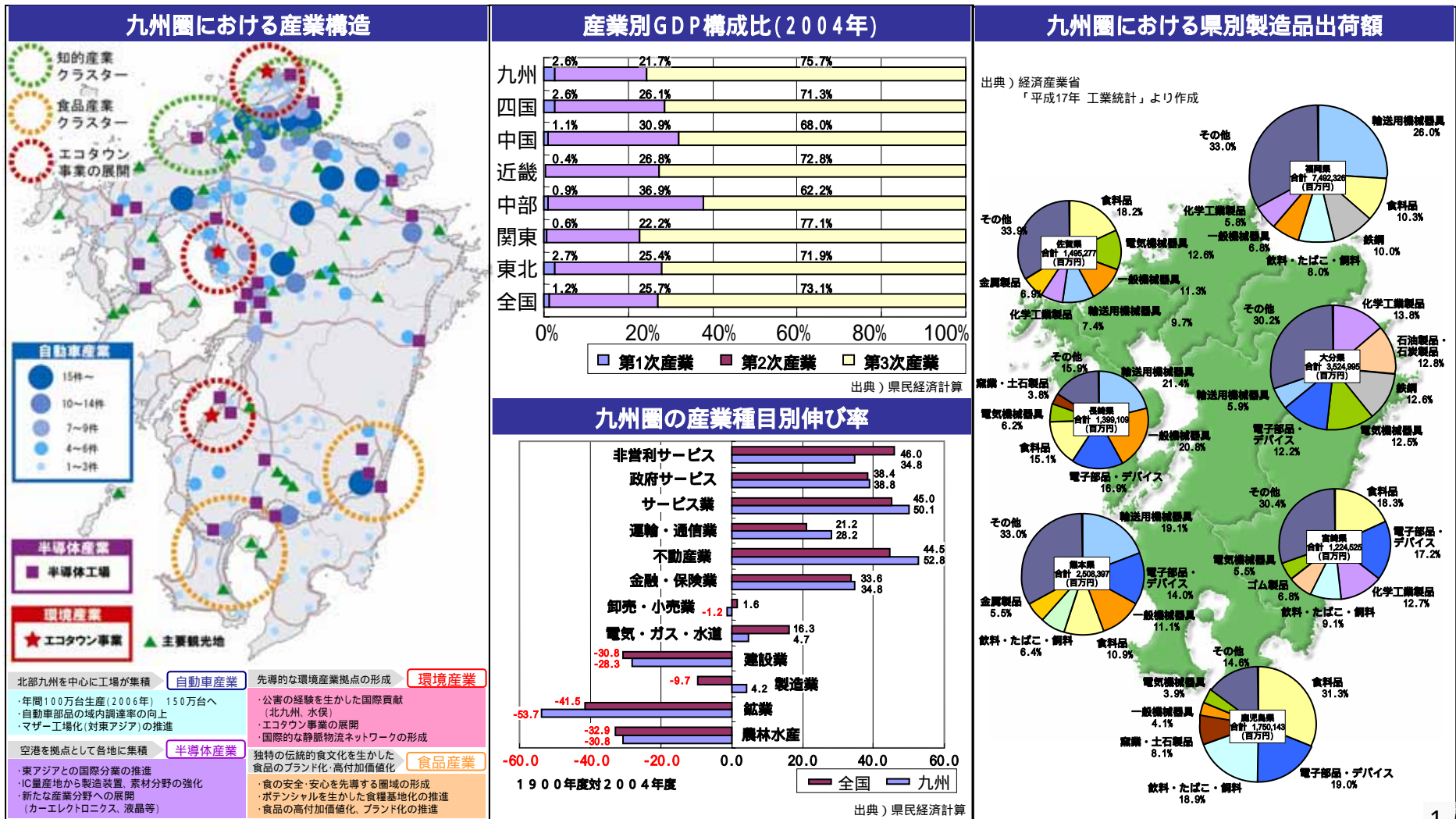
歩いて楽しい温泉観光地(大分県由布市)

持続発展可能な観光まちづくり
住民とリピーターが交流できる新たな生活型観光地づくり

由布院温泉

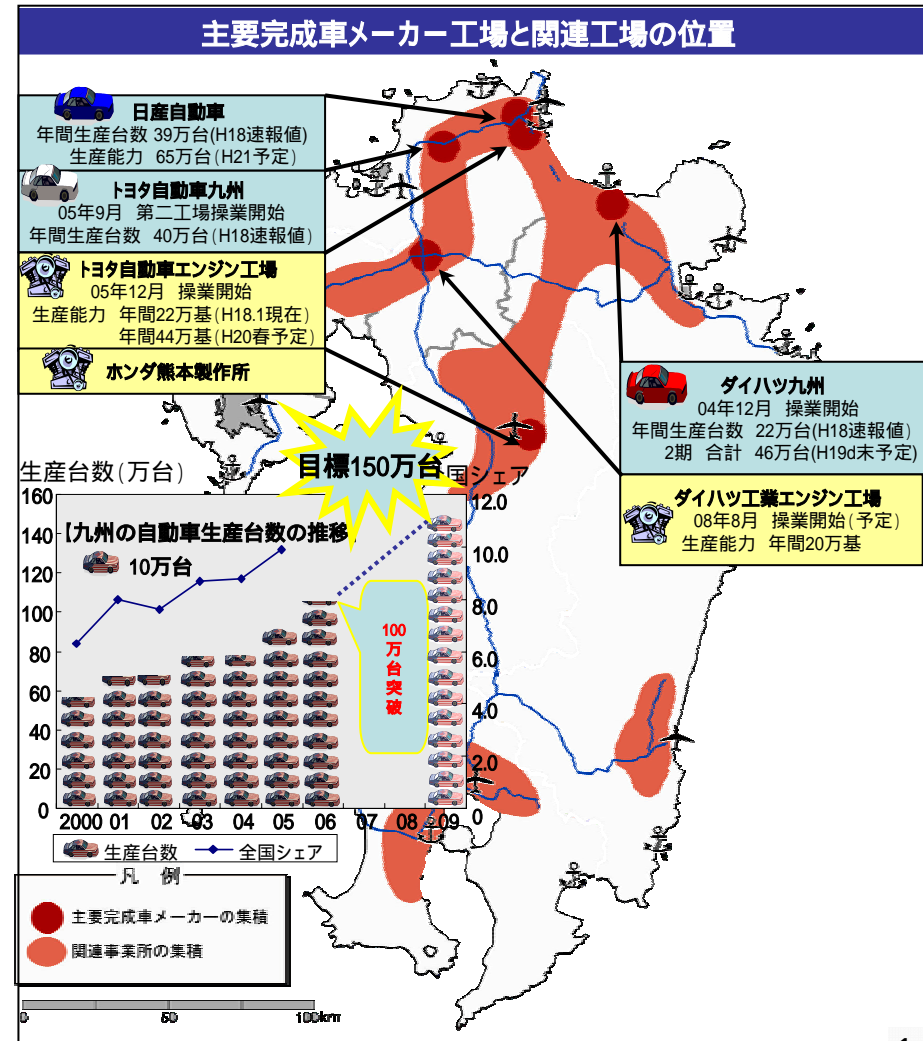
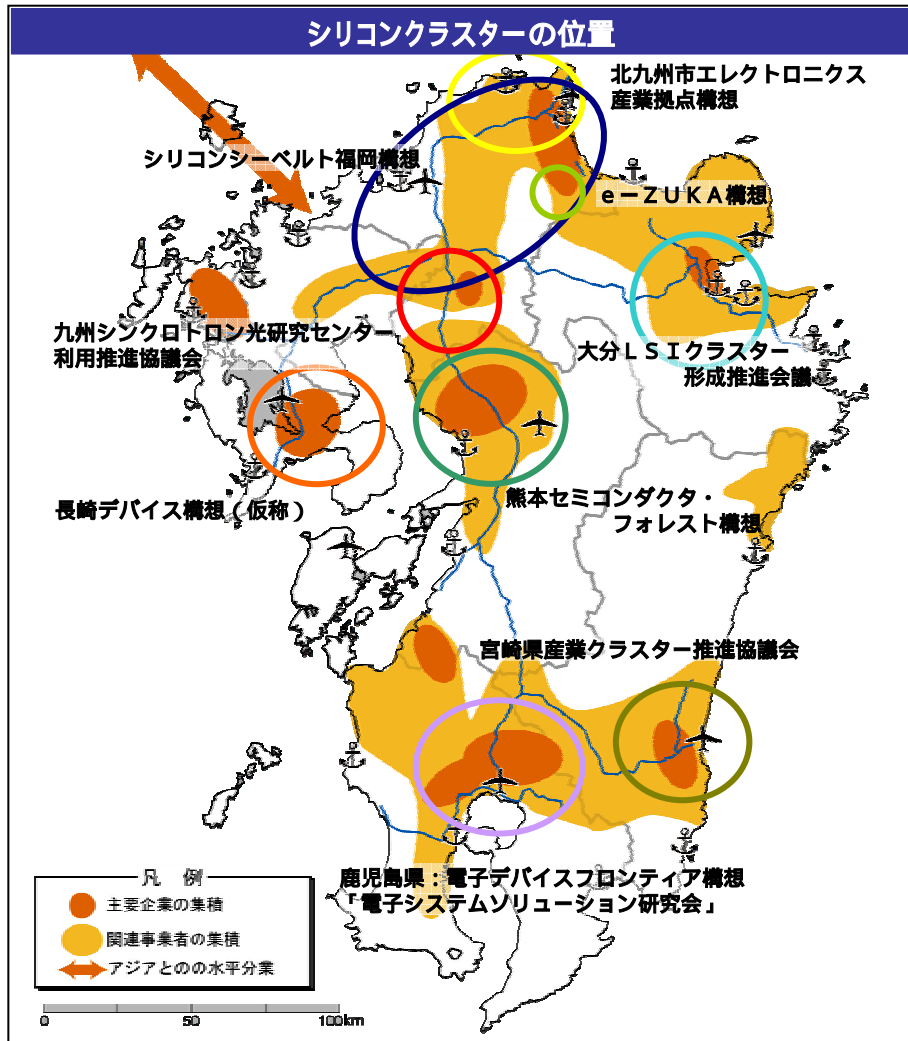
第1章第1節(4) 九州圏の産業構造

- 九州圏の産業構造は2004年度のGDP構成比で、第1次産業2.6%、第2次産業21.7%、第3次産業75.7%。九州圏は他圏域と比較して、第1次産業の割合が高いグループに属する。
- 九州各地では、金型工場、精密機器等の産業集積、ものづくりの伝統技術等を支える中小企業や地元企業が各地にバランスよく点在している。



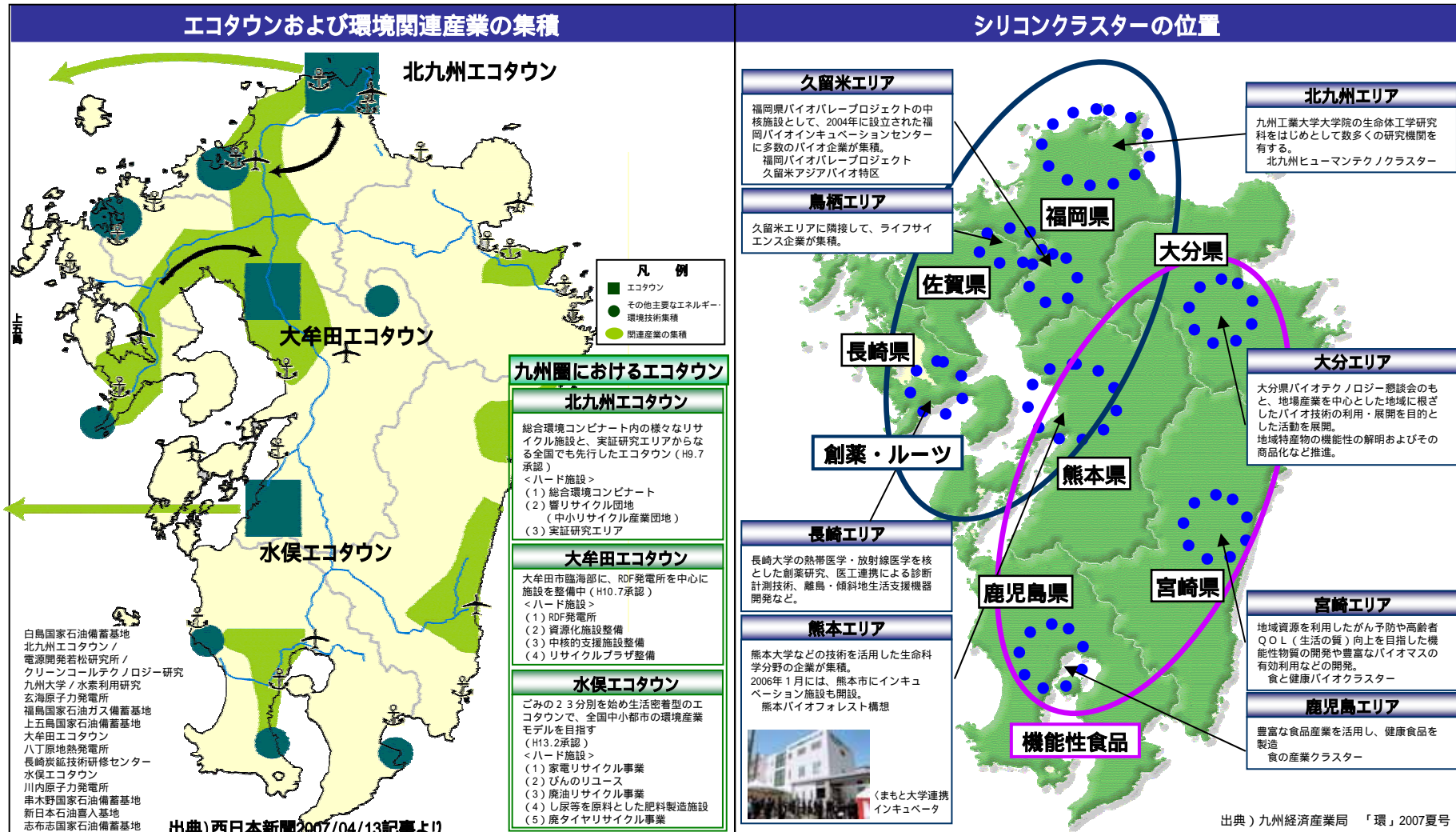
第1章第1節(4) 自動車産業、半導体産業等の産業集積

- 1960年代から半導体関連産業、1970年代から自動車関連産業の立地が進んでおり、「シリコンアイランド」「カーアイランド」の集積が形成されている。
- 従来の産業集積や東アジアへの窓口としての位置づけを活用し、東アジアにおけるマザー工場へと姿を変えつつある。



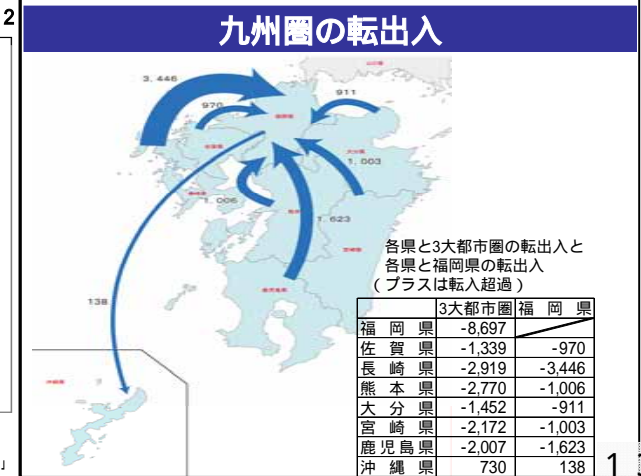
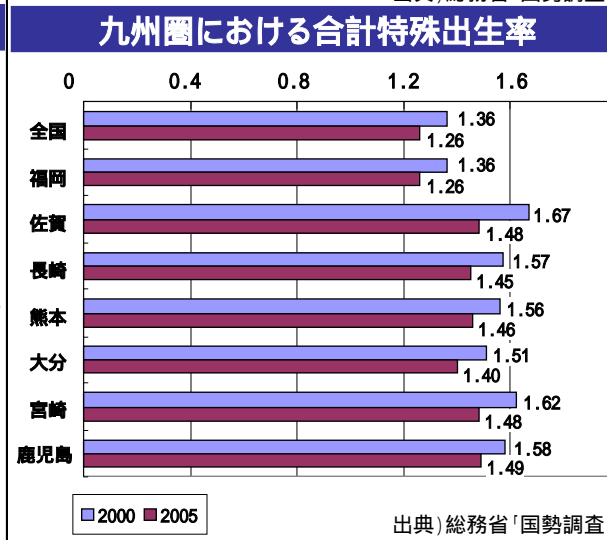
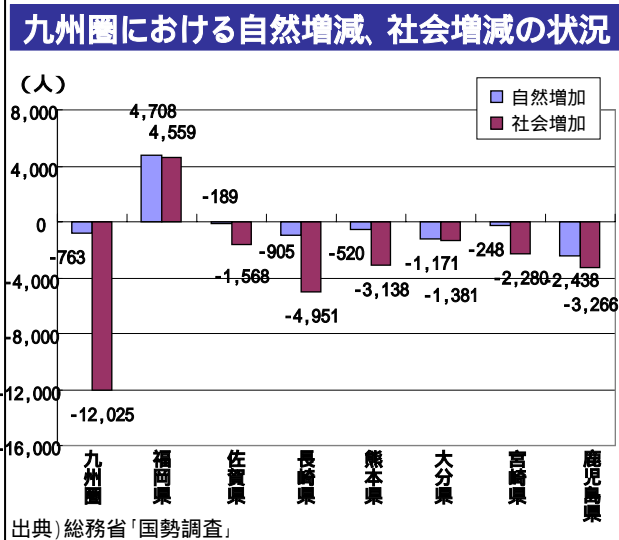
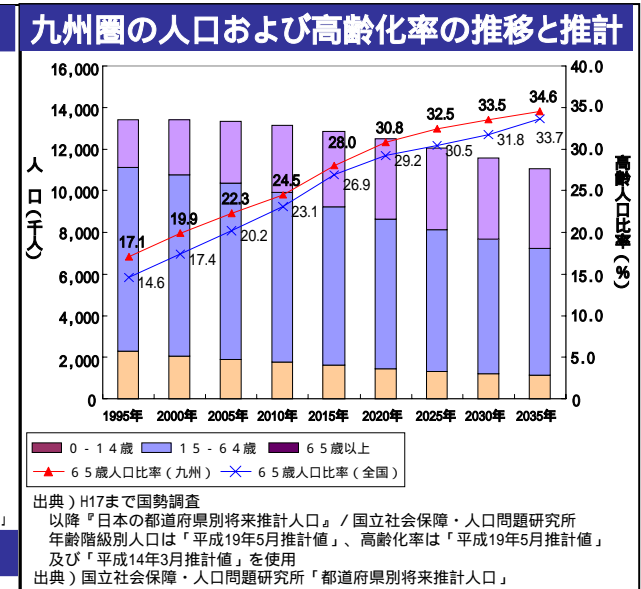
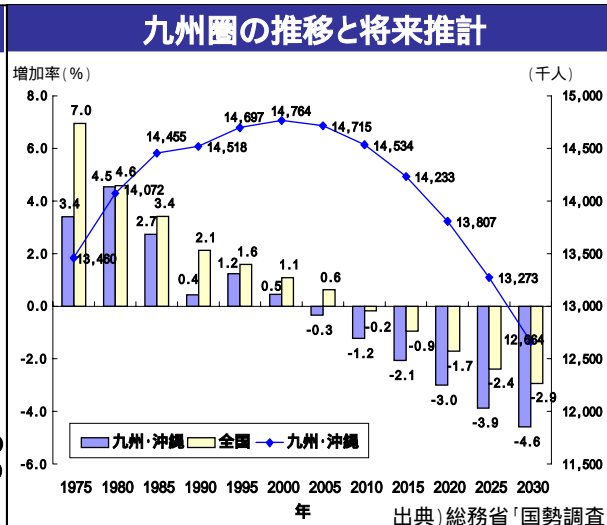
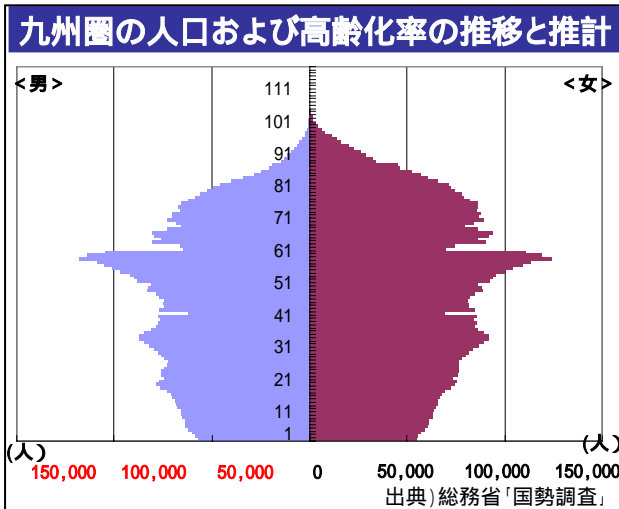
第1章第1節(4) 新たなニーズに対応した新産業の形成

- 九州各地には九州地域環境・リサイクル産業交流プラザが整備され、北九州、大牟田、水俣にはエコタウンが形成されている。
- 九州圏では、安全・安心、環境・エネルギー等の新たなニーズに対応した新産業の創出が進んでいる。



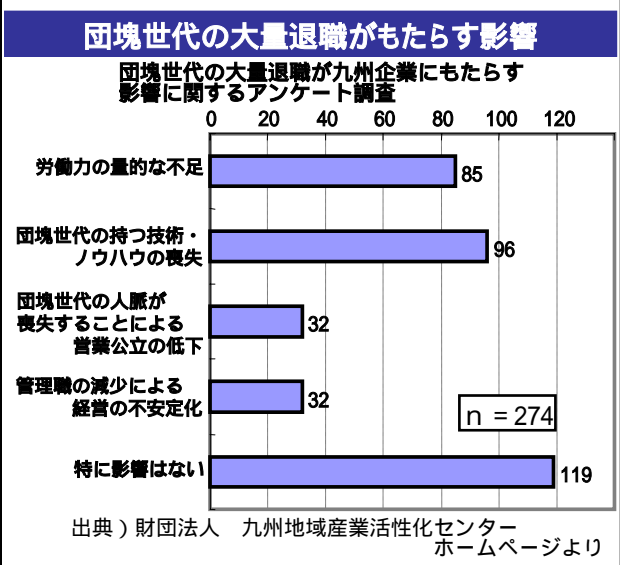
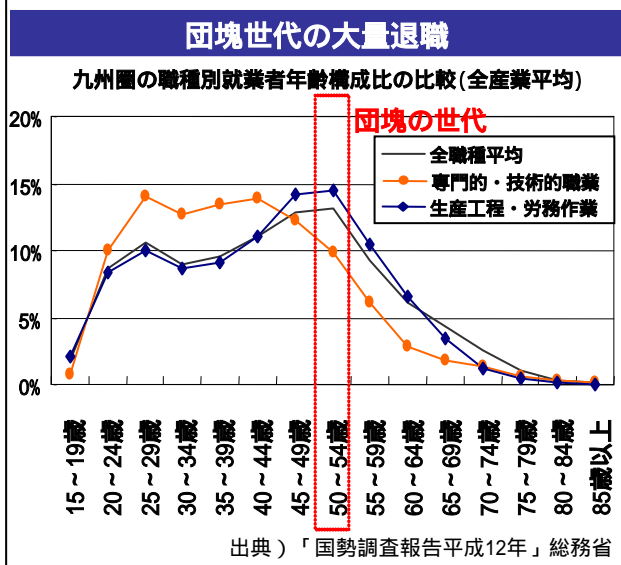
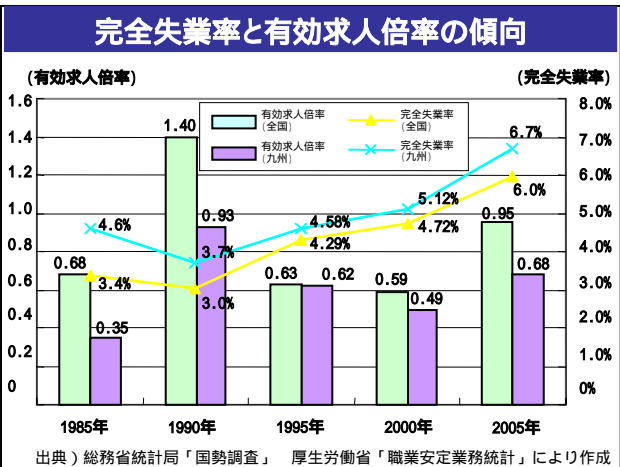
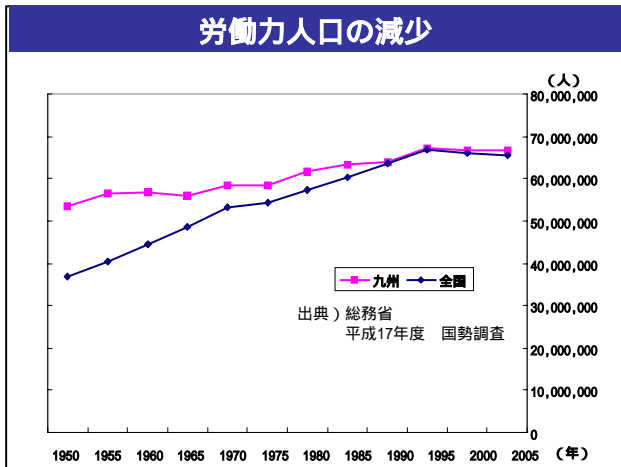
第1章第2節(1) 本格的な人口減少社会の到来、急速な少子高齢化の進展

- 九州圏の人口は、2030年には約1,140万人まで減少し、高齢化率は34%まで上昇すると推計されている。
- 社会増減では、転出超過の傾向が続いており、自然増減についても2005年にマイナスに転じるなど、自然増、社会増を維持する福岡県を除き人口減少が進んでいる。特殊出生率は、全国と比べ高い水準を維持しているものの年々減少しており、圏域全体で急速な少子高齢化が進展している。
- 九州圏内では、若年層において福岡県への転出超過が見られる。



第1章第2節(1) 人口減少・少子高齢化の影響

- ・ 労働力人口の減少に加え、団塊の世代の一斉退職による企業活動の停滞が懸念される。
- ・ 近年は、九州圏においても高齢者の再雇用や新卒採用求人数の増加が見られるものの、中小企業において優秀な人材を採用することが難しくなることが懸念される。九州圏では転出傾向が強まっており、その転出先は東京圏に集中している。



地域が一体となった基幹産業の技術・技能継承(事例)

造船業界では、団塊世代の定年退職者による2007年問題を迎え、次世代人材育成と熟練技能の伝承が大きな課題となってきていますが、特に中小造船所においては個別の対応が困難な状況である。

世界的に優れた高いレベルの造船技能を新人職員や経験の浅い若者に対して教育・実技訓練を行い、造船技術の伝承を行うことにより、造船業の安定的な企業経営を図り、業界の発展及び地域経済の発展に寄与していくことを目的として、造船造機技術センターを設立。

大分地域造船技術センター 平成18年4月開設



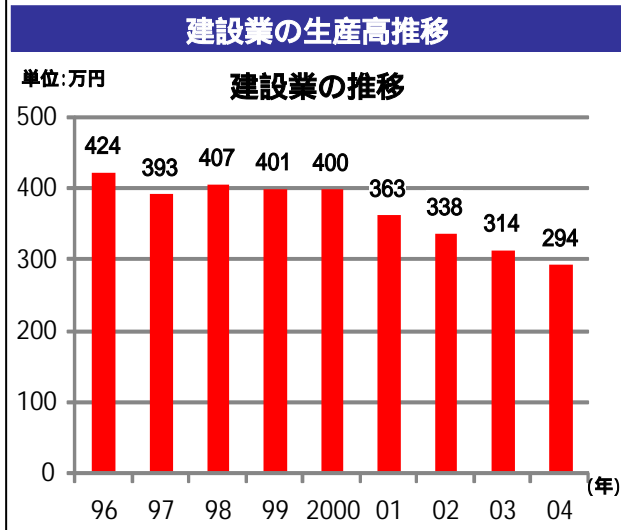
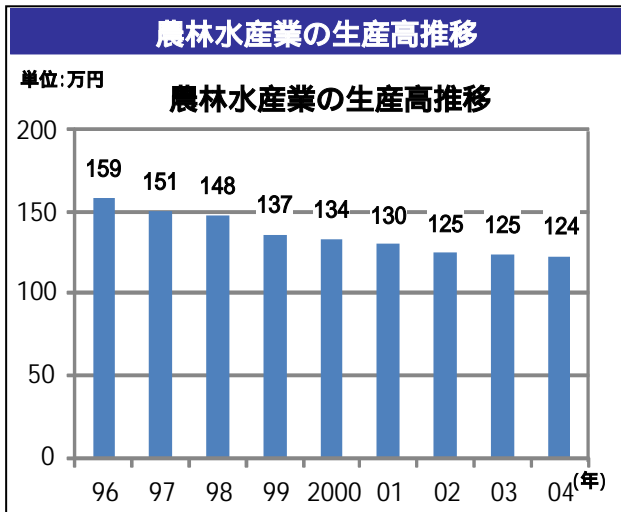
長崎地域造船造機技術研修センター 平成19年4月開設



出典)九州運輸局プレス発表資料

第1章第2節(2) 産業構造の転換

- ・農林水産業は人口の減少と高齢化により生産高は減少し、建設業においても生産額が減少している。
- ・農林水産業については法人化による大規模農業経営や、安全・安心、環境へのニーズに対応した農商工連携、建設業では他産業への転換が図られつつある。労働力人口の減少に加え、団塊の世代の一齐退職による企業活動の停滞が懸念される。



農商工の連携

その他食品 生産 → 流通 → 消費者 (モジュール規格化(価格))

ブランド食品 生産 → 流通 → 消費者 (モジュール規格化(品質))

IC化後全食品 生産 → 流通 → 消費者 (インテグラル多様化(品質・価格))

宮崎県都城市の農業生産法人(新福青果)では、PDAを用いたユビキタスなトレーサビリティシステムを導入し、企業的な農業経営を実践している。

出典)「トレーサビリティシステム導入事例集」平成17年3月 社団法人 食品需給研究センター

出典:「九州ものづくり懇談会」資料 九州経済産業局

建設業の新たな展開(事例)

剪定作業で発生する生木を再利用し付加価値の高い堆肥肥料として製造販売

福岡県北九州市の事例

リサイクル事業の先行メリットと実績を生かした事業の確立と強化

これまでも造園の際に排出される木材を利用したリサイクル事業を行ってきたが、さらに、剪定で廃棄される生木に着目、これを他事業者から受け入れ、付加価値の高い堆肥の製造、供給にいたる事業の確立と強化を図る。

事業の背景と動機
リサイクル事業の基盤の確立と強化を図るため、剪定で廃棄される生木に着目。また、本業の造園業との相乗効果も期待している。

事業の推進体制
生木を堆肥肥料に利用するリサイクル事業の強みは、原料の受け入れは有料で行っているため、仕入れ原価は不要であること。廃材を利用した他の製品に比べ、堆肥肥料はトン当たり数倍～数十倍の価格で販売できるというメリットはあるが、競争が激しいため、より付加価値の高い製品の開発に取り組んでいる。

成果と今後の課題
細分化された大学の専門家と、どのように連携していくかということ、また、専門家をマネジメントできる人材の育成も課題。リサイクル事業では、製品の付加価値が競争優位の大きなポイントになる

九州の建設業による農水産物栽培とこれを利用した観光農園の開発

佐賀県佐賀市の事例

ブルーベリー、そば、高菜等の農産物栽培とこれを利用した観光農園の開発

若者の農業離れ、進む高齢化などから、増加の一途をたどる耕作放棄地の再生に建設業の持つ技術力とノウハウを生かそうと有限会社を設立。現在、付加価値の高いブルーベリーをはじめ、そば、高菜、菊等を栽培し、加工、販売まで行っている。今後は観光農園としてレストラン・直売所等も設ける予定。

事業の背景と動機
若者の農業離れと高齢化の影響を受け、農村での耕作放棄地の急激な増加が問題になっていることに着目。起業者の実家が農家であったことや、建設業で培った技術力とノウハウを生かせる仕事とを考え、農業参入を決定。

事業の推進体制
県や市の公的支援制度を利用し、担い手のいない荒廃した農地の貸借を推し進め、地元農家との話し合いのうえで、観光農園化を図っている。

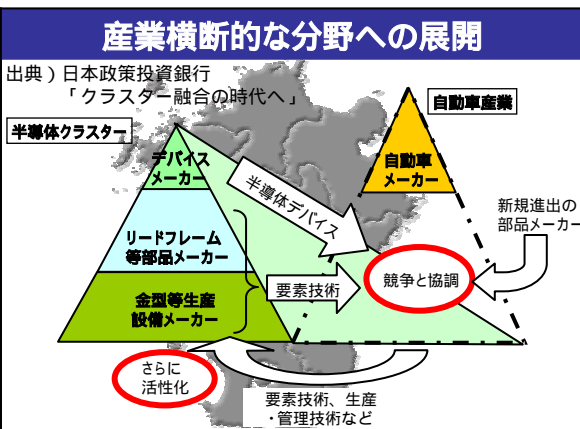
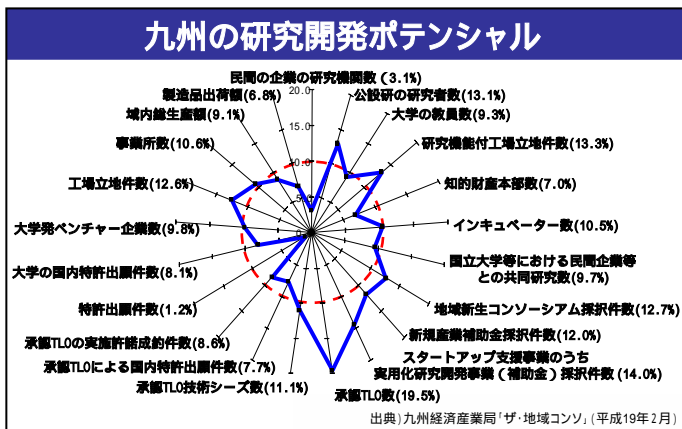
成果と今後の課題
現在、10種類のブルーベリーを試験栽培。収穫物は地元の「道の駅」と連携して試験販売している。ネットによる販売や福岡市内への販路開拓も推進。課題としては、資金の手当てのほか、農業技術者の指導・育成による生産体制の確立があげられる。

試験栽培中の高菜。ほかにも古代米、そば、菊などを栽培している。

出典)財団法人 建設業振興基金

第1章第2節(2) 産業構造の転換

- ・ T L O (技術移転機関)、知的・産業クラスター、農業クラスター等の集積産業を核とした産学官等の連携による企画・発案分野の強化が活発化している。
- ・ 地域コンソーシアムをはじめとする提案公募型実用化研究開発事業の九州の採択件数は、全国平均の10%を超えており、事業化が期待される多くの産学官共同研究が実施されている。



産学官連携による企画・発案(事例)

鹿児島大学の焼酎学講座

鹿児島県酒造組合連合会の寄付により設置。鹿児島の焼酎文化を発展させ世界ブランド化を目指すとともに、次代を担う「焼酎の匠(たかみ)」の育成が狙い。焼酎の専門講座は国内初。

出典)鹿児島大学HP

熊本大学のバイオサイエンス

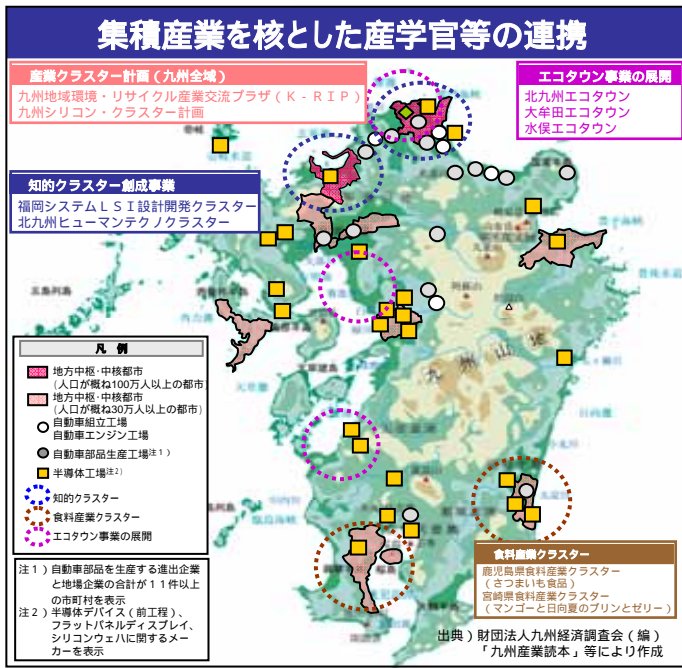
産学官連携を指向した九州バイオサイエンスシンポジウム

疾患プロテオミクス最前線

新規テクノロジーの開発から臨床応用まで

熊本県では「バイオフィレスト構想」を打ち立てており、熊本大学の主催で、産学官連携を志向した九州バイオサイエンスシンポジウムが開催されている。

出典)九州バイオサイエンスシンポジウムHP

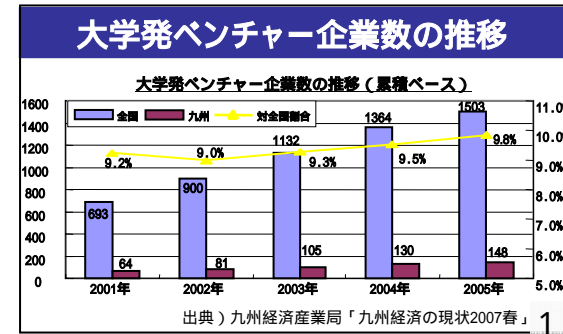


産業横断的な分野への展開(事例)

車載用半導体の製造には高レベルの品質管理が要求される(写真左)
32ビットフラッシュ内臓マイコン(写真上)

九州に拠点を置く半導体製造関連企業は約550社。NEC九州は昨年「人センサー」と呼ぶ品質管理運動を展開し始めた。車載用は不具合があれば即人命にかかわるだけに極限レベルの品質管理が求められる。人センサーは、ICテストなど機械では発見できない色、におい、音など微妙な変化を察知して不良発生を抑え込む戦略。例えばマイコンはエンジン、ブレーキなどの制御に使われるほか、エアバッグ、パワーウィンドー、エアコン作動にもパワーICなど様々な半導体が必要。クルマ1台当たり搭載率も急上昇。小型モーターを多数搭載するハイブリッド車はマイコンだけで百個を越す。今やクルマ造りには半導体産業との協業なしには成り立たない。

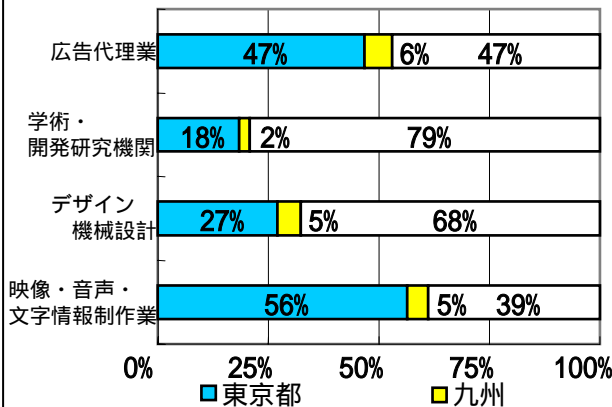
出典)日経ネット九州版ホームページ



第1章第2節(2) 産業構造の転換

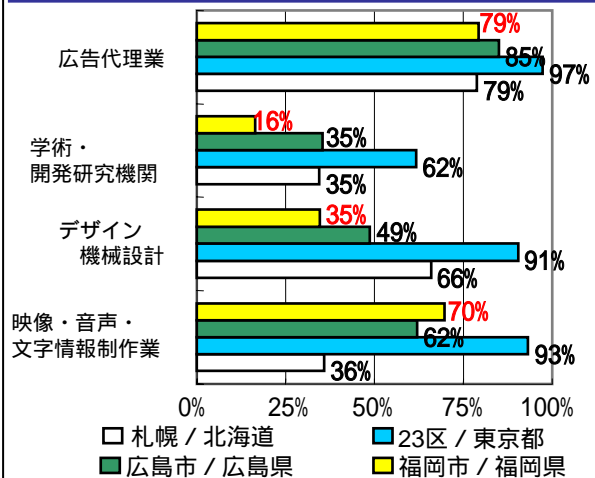
- ・知識財産業の代表であるデザイン、映像・コンテンツ関連の就業機会は、全国的には東京に集中しており、九州は1割に満たない。またこれらは中心部・都市に集中している。
- ・九州圏では各県県庁所在地を中心に、医学部、工学部、農学部など産業のイノベーションを担う学部を有する国立大学が存在する。

特定サービス業の従業者数シェア



出典) 総務省「サービス業基本調査 平成16年」

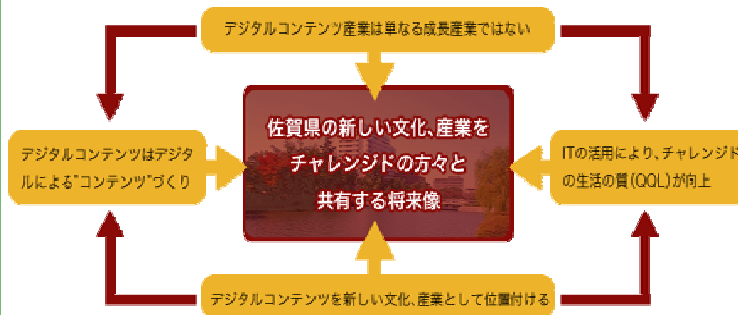
特定サービス業従業者数の都市への集中



出典) 総務省「サービス業基本調査 平成16年」

九州圏におけるコンテンツ産業集積のための取組み(事例)

アジアのハリウッド構想が描く佐賀県の将来像



佐賀県 アジアのハリウッド構想

100年以上前に映画産業がハリウッドという地方都市に集積・定着したことをモデルに、21世紀の新しい成長産業であるデジタルコンテンツ産業を佐賀県に集積・定着させるために必要な条件やその条件整備のために具体的に何を実施すべきなのかを見極め、その条件整備に取り組む。

出典) 佐賀県ホームページ

福岡ゲーム産業振興機構の沿革

福岡県では、「コンテンツ産業の拠点」福岡」を目指し、制作・流通・資金供給・教育関係の企業・団体・機関が連携し、「福岡コンテンツ産業拠点推進会議」という、人材育成や拠点性の発信、会員間の連携・交流事業を行う組織を立ち上げている。

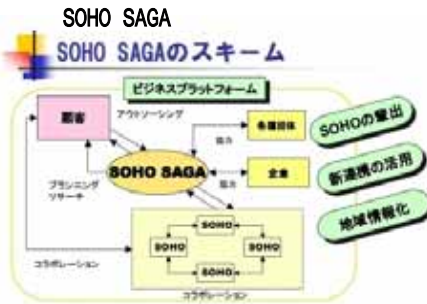
また、福岡市は、九州大学や福岡立地のゲーム制作会社と共同で、福岡ゲーム産業振興機構を設立し、学生を対象にFUKUOKAゲームインターンシップ事業を実施し、域内企業への学生誘致を行っている。

出典) GFF ホームページ



- ・九州圏においても、情報通信技術の発達により、遠隔地でも高度な情報へのアクセスが容易になる特性から、テレワーク等の勤務形態の多様化が進む。
- ・インターネット等を活用することにより、場所を選ばず低コストで特産品等の販売が行える環境が整いつつある。

九州圏におけるテレワークのネットワークとeコマース(事例)



出典)SOHO SAGA HP

SOHOテレワークは地域の人財(人材は宝)の潜在能力を活用する有効なツールです。SOHO SAGAではSOHOテレワークの支援、育成を通して佐賀の地域活性化に貢献することをめざしている。

eむらづくり(五島市)



出典)NTT西日本HP

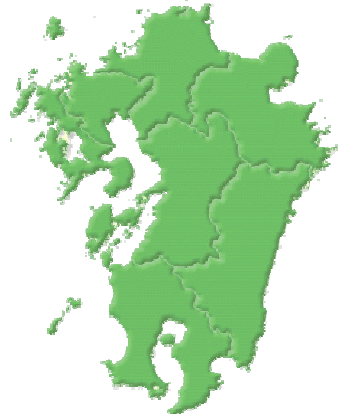
合併後、市の一体化を進め、地域間の連携を高めるために、情報通信基盤の整備を進めることとし、その指針となる「五島市e-むらづくり地区計画」を策定している。

熊本テレワークセンター



出典)サイバーモール阿蘇HP

サイバーモール阿蘇は、熊本県阿蘇四町村(一の宮町・阿蘇町・産山村・波野村)を紹介し、阿蘇の大自然に触れてみたい方へ、インターネットによる宿泊予約と、阿蘇の大自然が育んだ農産物を中心とした物産品の購入が可能なショッピングモールを兼ね備えた構成になっている。



宮崎県ソフトウェアセンター



出典)宮崎ソフトウェアセンターHP

「地域ソフト法」に基づき設立され、人材育成事業、斡旋指導事業、コンサルタント事業、実践指導事業を実施している。

EC(eコマース)協議会九州支部



NPO法人全国イーコマース協議会(EC協議会)九州支部は、同協議会会員のうち、特に九州地区会員事業者を中心として、また九州地域のイーコマース事業の拡大・促進・向上を主な目的としている。EC協議会やその会員によるメーリングリストである「熱い九州ML」内での情報交換で、受注業務の効率化を進めている。

出典)全国eコマース協議会九州支部HP

北九州テレワークセンター



出典)北九州インキュベーション施設HP

アントレプレナーや独創的なビジネスを展開するベンチャー企業のためのインキュベーション施設で、産学官から構成される入居審査委員会の審査を通過し、入居が決定した個人・企業には、インキュベーションオフィスを提供するだけでなく、インキュベーション・マネージャーによる各々の成長段階に応じた支援、また、センター内、コミュニケーションサロンやオープンスペースが利用でき、入居者同士の交流もさかんに行われている。

eむらづくり(豊後高田市)



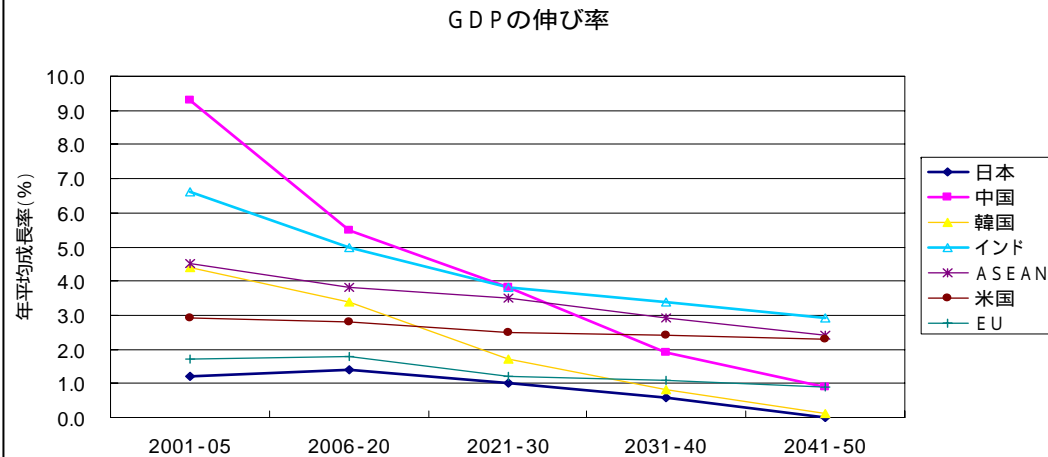
出典)豊後高田市HP

「食」と「農」の再生プランの柱である「都市と農山漁村の共生・対流」の促進、ITを活用した効率的な農林漁業の展開や農山漁村の生活環境の向上等を目指している。

第1章第2節(3) 東アジア等の著しい経済発展

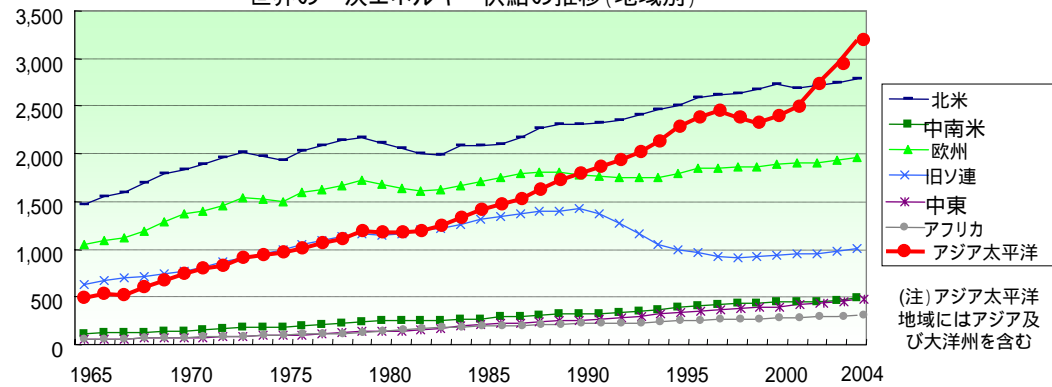
- 世界の経済成長のグローバル化が進む中で、中国、インド、ASEANなどは、今後50年間常に高い成長率を維持していくことが予想されている。東アジア諸国の経済成長により、エネルギー需要(供給)は、急速に増大しており、また経済活動の負の副産物である漂着ゴミなどの国際的問題が顕在化してきている。

アジア諸国の急速な経済発展



出典)内閣府「国民経済年報」、World Bank、World Development Indicators、各国統計など

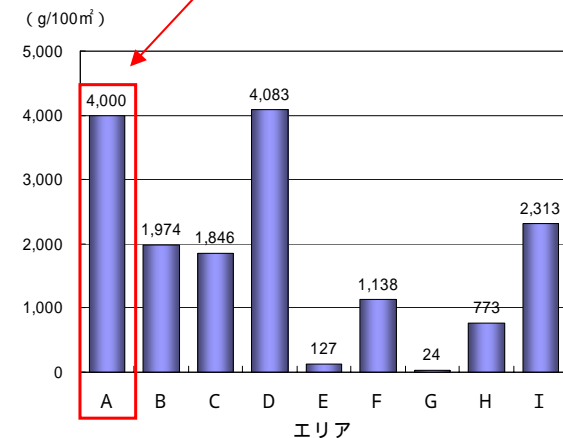
世界の一次エネルギー供給の推移(地域別)



(注) アジア太平洋地域にはアジア及び大洋州を含む

出典)BP「Statistical Review of World Energy 2005」

東アジアの海岸線における漂着ごみの量



出典)「国土計画審議会第11回計画部会資料」

第1章第2節(3) 東アジアの発展と九州圏の人、物、情報等の流通

- ・九州圏では、1995年から2005年の10年間で貿易額が約2倍弱に拡大している。
- ・1990年には約4割強を占めていた欧米は2005年には約3割弱に減少する一方、アジア全体のシェアは約2倍に上昇している。
- ・九州圏からの海外企業進出数の約7割、入国外国者数の約9割を東アジアが占めている。
- ・九州圏における国際旅客、物流需要動向は各日に増大かつ多様化している。

